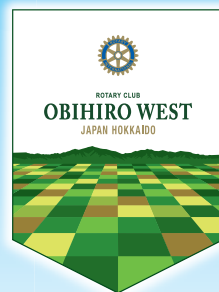




Since 1972.2.24

# 帯広西ロータリークラブ 第1962回例会 2012.8.30 会報



## ■RI第2500地区テーマ■

心と心、笑顔と笑顔、今奉仕のために行動を起こそう



## ■クラブ・テーマ■

学ぼうロータリー、訪ねようロータリークラブ

### 会長報告

- 今日「ご挨拶」についてお話しします。名言の中にも「実るほど頭を垂れる稲穂かな」とありますように、人格の謙虚な人ほど頭を深く下げる例えですが、私自身、海外生活が長く人の目をみて挨拶するので「態度がでかい」と若いとき批判をされましたが、やはりその時は人格に比例していたと思います。
- ロータリーの歌にもありますが、挨拶はロータリーの基本です。私が挨拶の本当の意味を知ったのは、今お配りした写真の場所です。挨拶の「挨拶」は心を開く「挨拶」は迫るということです。これは私が当時21歳の写真ですが、アフリカのケニアでマサイ族と一時過ごした時のものです。マサイの挨拶は全て「ジャンボ」で済みます。その「ジャンボ」の言い方が悪いと「お前どうしたんだ」ということになり、場合によっては敵意にみなされてしまいます。
- 皆さん、挨拶は会社の社員や家庭の子供たちはしているが、自分自身はちゃんとしているのでしょうか？ケニアで学んだことは心を開いて本気になって挨拶しなければいけないことが解りました。ただ今それができているかを考えると反省の日々であります。
- 私達ロータリアンは気持ち良く皆で挨拶したいと思いますし、家庭での奥さんとの挨拶もきちんとしてみましょう。紳士たる淑女たるロータリアンの皆様は私も含めちゃんとした「挨拶」を実践していきましょう。



マサイ族と若き日の自称イケメン川田会長

### 会務報告

- 10月5日 RI2500地区 北見地区大会のご案内
- 9月14日 帯広北、東、音更合同同伴夜間例会のご案内
- 9月17日 南クラブ休会のご案内
- 9月24日 南クラブ移動例会のご案内
- 9月27日 西クラブ夜間例会のご案内

### ニコニコ献金

- 川上哲平会員 31回目のエイジシュートをシニア選手権で達成。
- 久保忠正会員 会報の新コーナー西クラブの広場に第一号で三枚組の写真が掲載。
- 河西智子会員 本日担当例会宜しくお願い致します。
- 内海仁司会員 ソロプチミストチャリティーパーティーにバンド参加。
- 増井信也会員 北海道マラソン完走。
- 神田龍一会員 はまなすゴルフ優勝。ダブルペリアでダボ5つはまりました。

### プログラム

(プログラム委員会)

河西 智子委員長挨拶

- 昨年は北イタリアとドイツ旅行のお話を岡田会員より例会で伺いました。私達がなかなか行けない遠い国のお話を仲間から聞けるのは大変ありがたいことですし感謝いたします。なによりも無事にお戻りになったことが一番、本当によかったなと思っております。来年のご旅行もご計画で、本当にパワフルだと思います。今回はイスラエルの『旅』について卓話をお願い致します。

## 2012年 8月 会員増強及び拡大月間

ニコニコ 献金	8月30日	12,000円
	累計	186,000円 (8月30日現在)



会長 川田 章博  
幹事 大友 広明

副会長 岡田 武穂  
副会長 古田 敦則

会場監督理事 上垣香世子  
プログラム委員理事 河西 智子

発行：広報委員会  
委員長 鈴木 享 (副)本田美喜男



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)  
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033



## 会 員 卓 話

■ 岡田武稔会員

# 「旅」

74歳道楽者のなれの果ての話を書いて下さい。今日はヨルダンとイスラエルの旅のお話をします。なぜイスラエルとヨルダンなのかというと、ここはモザイク国家、人種や政治の爆発する火薬庫だと言われている地域だからです。

イスラエルという国は地図で説明しますと、線を引いてあるところがパレスチナ自治区でその他がイスラエルです。ガザ地区、テルアビブ空港、首都のエルサレム、ここが地中海と紅海、死海です。

西の方角がエジプトで、ここがサウジアラビア、ヨルダン、シリア、レバノンの五カ国に囲まれている四国と同じくらいの広さの国であり人口が730万人位の小さな国です。国境としてはパレスチナで認められているものとイスラエルで認められているものが違い、非常に難しい所です。これはイスラエルのシェケルというお金で、1シェケルは25円位です。次はテルアビブ空港で赤軍派が銃を乱射した所と、ホテルから見た地中海です。ここはリゾート地で、隣のシリアで内戦が起きているのが嘘のように穏やかで、ヨーロッパの富裕層がここにきてヨットなどでバカンスを楽しんでいます。

イスラエルの国の中でアミーだとか国境、軍事施設は絶対撮影ができません。この国は兵役義務があり、世界の国の中で一番軍事予算の比率が高いと言われています。この女性たちも銃を持っており、このような人たちがいっぱいおります。隠し撮りをしたこの写真は銃を持った兵隊さん、アミーの人たちです。街のいたる所にこのような銃を持った人たちがいて、荷物をその辺に置くと不審物として通報されたり見つけたりするとそこへ兵隊がきて荷物を持って行かれます。

これはイスラエルの街中の風景で、エルサレムからアカバに向かう国境への道程です。上の方に見えるのはパレスチナとイスラエルを囲っている塼で、高さは低い所で8m30cm、高い所で10m、この塼の延長がガザ地区とパレスチナ自治区で700kmあるそうです。コンクリートの幅が1m50cm、厚さ70cmそれが延々と続きます。道路は非常によくて、日本とイスラエルやヨルダンの山の風景はぜんぜん違い砂と岩の世界です。



エルサレムからアカバへ



死海での浮遊体験

これが有名な死海で、ここに入っている水はヨルダン川だけです。この川の上流にイスラエルがダムを造り、その水を全部イスラエル側に持ってきたものでこの水位が減って、もとは一つの海が途切れてしまい水路だけになって今、ヨルダンとイスラエルの間では水戦争が起こるのではないかとされています。

これは僕の写真です。死海で泳いだところで、中学生の時教科書に載っていた死海に浮かんで本を読んでいる写真があったので是非ともやってみたくて思っていました。このように浮くことができます。波が来て沖に流され立とうとしても足が沈みません。手で底をすくってみるとこのように塩が固まっており、一般的な海の塩分濃度は平均3%ですが、ここは33%で乾季では35%位あり、この中で泳いで外に出ると体が白かりんとうみたくになります。これは死海の夕日でホテルの高いところから見たところです。死海からアカバへ向かう国境のところで木が生えていますが、乾季なので木が全部枯れています。雨が一滴も降りません。9月から10月になると雨が降り、この枯れた木からまた葉が出てきます。北半球ですから冬になって初めて木の芽が出てきます。その中でナツメヤシの木ですが、これは栽培して規則正しく植えております。この水はイスラエル方式といって、管を木の周りに枠を付けてそこから噴水のように水を出して栽培しています。

この辺は映画のアラビアのロレンスのロケ地だと聞いています。

今回の旅の中で貴重だった体験はベドウィン、いわゆる砂漠の民という砂漠で牧畜をして、移動しない方式です。ベドウィンの生活の中に入れてもらって、写真を撮らせてもらうことができました。非常に純朴で本当に素晴らしい人で一晩泊めてもらいました。本当に粗末で衣食住の中で衣住は気を配らないようですが、最後にこの人が別れる時「また来いよ」と言ってくれ抱いてくれて、とっても本当に純粋な人達で別れる時に涙が出てしまい非常に印象に残りました。



ベドウィン～砂漠の民住居

この写真はヨルダン最高の世界遺産で文化と自然の複合遺産です。南米のマチュピチュや中国の万里の長城に匹敵するもので、ペトラの遺跡といいこれを見る為にヨルダンに行ったようなもので非常に素晴らしい遺跡でした。スイス人が発見してからまだ80年位しか経っていませんが、紀元前2000年からここに居住していた所です。この様に人間と高さを比較すれば分かる様に、侵食して昔は川が流れてい





ペトラの遺跡

た所で延々と行って中へ入って行くとその様な神殿があります。テレビの世界不思議発見でも何度か出ていますが今でも少しそこに人が住んでおります。この様に延々と遺跡が続き、機会があればヨルダンのペトラの遺跡は是非見ておかれたらと思います。

これは三相の220ボルトの電源と、これはホテルの便器は二つあり一つは普通で、もう一つはお尻を左手で洗うところで不浄の手はテーブルの上に上げないという決まりです。

次はセキュリティーチェックをする機械ですがホテルの入口の中にあります。14泊の内このホテルでもセキュリティーチェックがありました。出るときはなんでもないですが入るときはベルトからカメラまで全て調べなければホテルには入れませんでした。この旅でパスポートのチェックは132回もありすごい厳しさでした。ゴラン高原へ行くところでの様な道が延々と続き、その道中突然もくもくと煙が上がっていると兵隊が道路を閉鎖して、ここからは爆発があったから行けないと言って緊張した一瞬でした。

ここはヨルダンとイスラエルの国境でパレスチナ人はここを通過してヨルダンのアンマン空港からでない外国に出られないそうです。ヨルダンを出国してイスラエルに入るには5時間の検査があります。

これはキリストが修行したと言われる崖の上にある所ですが、このエリコという街には三つの世界一があり、一つは世界で一番低い所に街があることで360m海面より低い所にあります。紀元前2500年に聖書の世界でここは街として形成されており、今記録されている中では最古の街です。それとここで記録された気温が48度まで上がったということです。このように水が減多にないですが、イエスキリストがここで足を洗って次の旅にでたと言われ、本にも出ております。

これはヨルダン側の西海岸のところの砂漠で車を降りて写真を撮ろうとしたら運転手が大きな声でだめだと怒鳴りました。そこには地雷があるとのことでした。

この屋根の上の黒いタンクがある家はパレスチナ人の家で水の貯蔵タンクです。イスラエル人は混在していてもこのタンクがありません。なぜかと言うと迫害を受けると真っ先に水を止められる為で予備の水を溜めております。私の後ろにあるのがアラファト議長の墓で案内してくれた国連事務所に勤めていた顔の利く方でここは普通入れないけれども頼んでくれました。今アラファト議長が毒殺されたということで、ここを掘って今スウェーデンで検査されているそうです。



エリコの遺跡



分断の壁

これは先ほどのパレスチナとイスラエルを囲っている塀で、延々と続きます。ここを通る時には一般旅行者はパスポートを見せて荷物の検査を受けて地下道を鉄格子みたいな所をずっと通ってまた向こうで出ることができるが、地元の人には許可がなければここは通れないとのことでした。これはモスクの中ですが、ここも中々入れないところです。肌は、腕も本当はだめですが、下には衣装を借りてここを見せてもらいました。

これはあと一時間半ぐらいしたらここが皆いっぱいになってお祈りする所です。こういう所でも兵士が銃を構えて先週も銃撃されたと聞いて非常に危険です。これはイエスキリストが生まれたというベツレヘムというところの生誕の地で、ここは荘厳な気持ちになった所です。イスラムが72%、アラブ系が20%実際キリスト教というのはイスラエルの中では少なく5%位しかいません。イエスキリストが生まれたというところであるにもかかわらず少なく、ここがキリストが生まれた時に最初に置かれた台という所でした。



嘆きの壁

これはクリスマスにいつもミサが行われている所です。この地下道も非常に由緒ある所です。これは7年前にイスラエル軍が空爆した所で弾の跡だから運転手がよく見てくれと言っていました。これはさっきの地下道でずうっと通って出ないと我々旅行者は行くことができません。この様に向こうにも兵士が銃を構えています。



嘆きの壁

これは嘆きの壁でイスラムの聖地だといって、元々ここに神殿があってそれがローマ軍によって壊された場所に皆が祈りを捧げ、そこに紙を挟みます。それが夜露によって垂れるので、いつからかここが嘆きの壁と言われておりイスラムの人達が泣きながら祈り、ここで聖書の貸出しの書庫があってそこでこの様にします。これは石のドームでイスラエルの旧市街あるところで、ここも荘厳な所でモザイク模様がすごく綺麗でした。旧市街を囲んでいるのは下に岩があって上にこのように切った石を積んでいるのですが全てこういう所で旧市街が囲まれております。むこうで食べたアイスクリームと空港で最後にお寿司を売っていて、日本円にすると6個入っていて、いちまるで買うと400円位のところ1800円でちょっと高かったです。これは向こう

で見た初めてのこれについてのヤマサ醤油です。短い時間でしたがこれで終わります。全部で3、200枚くらい写真を撮りましたがここでは110枚くらいで時間が無いのでこれで終わります。

私は、大の野球ファンである。特に巨人の松井が好きで、松井の打ったホームランが大変“美味しい晩のおかず”になる。

そんなある晩、アナウンサーがこう話していた。

「土壇場の9回の裏、松井、あわやホームラン性のあたり、惜しくもライトライナーで試合終了、今日3三振の汚名挽回できず」

巨人はさいさき悪く、3連戦の初戦は巨人の敗戦に終わった。

ここで私の登場となる。

「どたんば」とは漢字で「土壇場」と書くが、ところでどんな場所？

実は罪人の首切り場所で、江戸時代の刑に生胴<sup>いげどう</sup>というのがあり、この土壇場に罪人を伏せて乗せ、首を切った。この土壇場から生きて生還した人はいないので“もう助からない状態”を「土壇場」といった。

あまり使いたくない言葉であるが、「死球」とか「封殺」・「2盗」のようにやたら生きる・死ぬの言葉を使うスポーツに相応しいかもしれない。

「あわや」とは、例えば“タバコの消し忘れが、あわや大惨事になる所でした”のように使い、本来好ましくない事が起きそうな時に使う。このアナウンサーがこの言葉の本来の使い方を知っていたら、松井にはホームランを打って欲しくない事になる。

「汚名挽回」とはどういう事を言うのであろう。そもそも“挽回”とは“取り戻す”という意味で使用し、「汚名」を取り戻したら更に悪い状態になってしまう。「挽回」するのは“名誉”であって、「汚名」は“返上”するという使い方が正しいのである。更に「さいさき」とは漢字では「幸先」と書き、“この先いい事がある”という意味で使い、“さいさきが悪い”とは大きな誤用なのである。

誰が言い出したか、「根暗」という言葉がある。即ち性格が暗い事だ。

“日本語大辞典”には載っているが、まだ定着しているとは言えない。

「根暗」が生まれると、追いかけるように「根明」ができた。

こうなると人間の性格を明か暗で分ける二分法が蔓延してきた。性格だけでなく行動までが、明暗で一刀両断される始末だ。

こだわり続けた毎日、大変疲れる毎日である。されど今日も「小言幸兵衛」。

